

詩・短歌

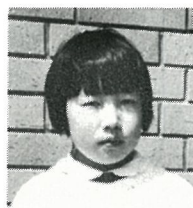
今回の児童・生徒のコーナーでは、日吉小のお友達の作品を紹介します。



2年 ふせ ゆう子

二年生になつて

あのねおかあさん。  
二年生に しんきゅうしたんだから、目あてをつくって、一年生のときより がんばります。  
ふとつて、ようふくがきられなくなつたので、まい日、うんどうじょうをかけたたり、やすみじかんは、そとへでてげんきにあそびます。  
うれしいことは、  
「おともだちが、いっしょにかけようね。」  
と いてくれたことです。



3年 ふせ ひでみ

春をみつけた

春をみつけたよ。  
つくしは、顔を出して、ねているよ。  
おたまじゃくしも、大きくなって、元氣よくおよいでいる。  
うめの花、  
なすの花、  
おおいぬふぐりの花も、  
顔を出してさいたよ。  
春は、ぼかぼかあつたかい。  
だから、花は、すぐ、さくよ。  
春は、  
おこりたくても、おこれないよ。  
それは、花が、たくさんさいているから、  
心も、おこる気には、なれないんだよ。  
春は、さむくもないし、あつくもない。  
わたしは、春がすぎだよ。



4年 田山 博之

春がきた

春がきた。  
風もあつたかくなつて、  
花のおいかな。  
いいかおりがする。



5年 越川 りつ子

プラネタリウム

すこしすると、もうそこには何千という星が輝きだした。  
丸い大きなドームに、きらきら光る一番星。  
北の空高くのぼる、北極星。  
そして北斗七星、白鳥座。  
南の空に目をうつすと純白に光るスピカ。  
私めがけて星がふつた。  
最後に、流れ星を一度だけ見た。  
流れるのが早かつたけれど、きちんとお願いできた。

東からピカピカ光る太陽が顔を見せた。  
思わず「おはよう」と言ってしまった。  
私はプラネタリウムの中にいた。  
とてもすばらしい星の世界の中にいた。

土をさわってみると、  
外の空気よりあつたかい。  
やっぱり春は、むし暑くもなく、  
そう寒くもなく、  
ちようどいいな。  
春のあつたかくて強い風は、  
電線にさわると、  
「ピーピーピルル——」、  
って音がする。  
春は、  
風に運ばれてくるんだな。

岩田 慶雄

里ざくら盛りを過ぎし山峡の  
かげりの疾く炉端燃え立つ

椎名 静子

幾筋も鋤き返されし黒土の  
湿りし畑に陽炎のたつ

岩沢 芳江

ローカル線人も疎らに寒々し  
雪の山里車中より撮る

山崎平八郎

春の雪しづくとなりて光りつ、  
葡萄の小枝つたわり落つる

土屋 好

久々の星の夜空を仰ぎ見て  
「明日はやるぞ」と左官業の夫

藤代 敏子

ユーモアを混える歌評も的を  
射て米寿の歌人いよよ壮んに

竹内 紀葉

春されば山のなだりのおどろ  
陰やわら拳をもたんさ蕨